


## 平成 29 年度 研究サマリー

研究会名称	高齢者ネフローゼ症候群治療研究	
代表者所属	埼玉医科大学	
代表者氏名	御手洗 哲也	
<p><b>研究方法・結果</b></p> <p>前方視多施設コホート研究である「ネフローゼ症候群を呈する高齢者の一次性膜性腎症に対するミゾリビンの有効性と安全性の検討」の基盤施設として、引き続き臨床データの解析を行った。全国 24 施設から登録された症例のうち、解析可能であった 36 例を対象とした。PSL 単独群 (P 群) 18 例とミゾリビン (MZB) 併用群 (PM 群) 18 例の 2 群間で比較検討し、主要評価項目を治療開始 12 ヶ月後の蛋白尿改善とし、副評価項目として 3 ヶ月後、6 ヶ月後の蛋白尿改善、phospholipase A2 receptor (PLA2R) の定性及び定量測定値と蛋白尿改善効果との関連、などを解析対象とした。</p> <p>治療開始 12 ヶ月後の尿蛋白排泄には両群間に相違は見られなかったが、3 ヶ月、6 ヶ月では尿蛋白減少率は PM 群で高値傾向だった。尿蛋白減少度により score 化した remission score でも、3 ヶ月、6 ヶ月では PM 群で高値傾向だったが、12 ヶ月後には相違は消失した。一方治療に応答した群でのみ解析すると、尿蛋白減少、remission score 改善は 3, 6, 11 ヶ月の全てで見られた。尿蛋白減少に関してロジスティック解析を行うと、PM 群では odds 比 1.5 と高く (95%CI: 0.33-6.83)、MZB 併用により、より早期に寛解導入となる確率が増える可能性が示唆された。</p> <p>PLA2R 定性結果との関連では、蛋白尿減少との関連は見られなかったが、remission score については PLA2R 陰性群が、陽性群に比して高値 (remission しやすい) 傾向が見られた。</p> <p>PLA2R 定量結果に関する解析については、得られた検体数が少なく、十分な解析は困難であった。そこで中央値である 121.1 U/mL で高抗体価群と低抗体価群とに群別し、解析を行った。その結果 PLA2R 低抗体価群では baseline での蛋白尿の程度が軽いこと、3 ヶ月、6 ヶ月での蛋白尿減少率は低抗体価群で高値傾向である事、remission score も 3, 6, 12 ヶ月の全てで低抗体価群が高値を示した。</p> <p>以上から、MZB 併用により、早期の寛解導入の可能性が高まること、PLA2R 抗体価は治療反応性の予測因子となり得ること、等の可能性が示唆された結果であった。</p>		
<p><b>研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)</b></p> <p>54<sup>th</sup> ERA-EDTA Congress にてポスター発表を行った (会期: 平成 29 年 6 月 3 日~6 月 6 日、開催地: マドリッド、スペイン)。</p> <p>Kidney Week®2017, 50<sup>th</sup> Annual Meeting にてポスター発表を行った (会期 平成 29 年 11 月 2 日~11 月 5 日、開催地: ルイジアナ、アメリカ)。</p>		